



# さとやま

～冬号～  
No.157

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

さとやま 2022年 冬号 (通巻157号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会  
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1  
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内  
tel 029-874-6600 fax029-874-6812  
<http://ushiku-satoyama.org/>  
■編集 木谷昌史

1. 表紙 (雪景色の観察の森)
2. お知らせ・プロジェクト活動報告
3. プロジェクト活動報告
4. 裏表紙 (タヌキの足跡)



結束町みどりの保全区  
「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

秋～冬にかけての作業は雨や新型コロナウイルス感染拡大の影響のため活動できない日もありましたが、夏前の活動で下草をしっかりと刈られたこともあり、秋以降市道沿いの下草は抑えられ、スッキリとした林床景観が保たれています。11月の終わり頃にはフクロウの鳴き声も聞こえ餌場として重宝されているのではと嬉しくなりました。

2～3月は下記の通り2回の実施を予定しております。雑木林の景観維持へのご協力を引き続きどうぞお願いいたします。

活動日：2月22日（火）、3月8日（火）

時間：9時～11時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。



市道横の草刈りの様子



杉林内での活動の様子

雑木林応援隊  
炭入れ活動報告

竹越 敏雄

コロナ禍で、活動もままならない昨年11月20日から二日間、竹炭の炭焼きを行いました。時が過ぎるのも早いもので、26年前の1996年12月17日に当時の「雑木林の会」のみんな、近隣で炭焼きを生業としていた方の指導の基、今の炭窯が完成。それから幾度も修理や一部改造したり、小屋の改修をしたりして現在に至っています。

当初は、火を入れてから3日～4日をかけておこなっていましたが、現在は、竹炭だと2日位で焼きあがります。しかし、毎回の様に満足のいく炭はいまだに焼けません。今回も、昨年5月に焼いた、炭の取り出しから始まりましたが、これは、炭窯の天井が土で出来ており、中を空っぽにすると、天井が湿気をおび陥没する恐れがあるので次回炭焼きを行うまで入れっぱなしになります。炭が、一種の乾燥剤の役目を果たすのです。この時は、竹と桜の木の混在で焼きましたが、最後の窯を閉じるのが遅かったか、または、窯に小さな穴が開いて、窯締め後も直ぐに火が消えず時間を掛けてゆっくりと消えたか？焼過ぎの状況でした。桜の木の炭も、取り出し時に持ち上げると崩れて粉々になる。竹炭も同様で持ち上げると崩れる状況。焼き上げた炭を全て出し終え、再び炭材の詰込みを行う。今回は、真竹だけの炭材です。午前中に炭出しと、詰込みが完了して、昼食前には窯口に火を入れてから昼食。午後はひたすら薪をくべて熾火を多く作るように送風機や扇風機を駆使して窯の中の温度を上げていきます。

初日は、3時ぐらいで、窯のとば口に大きな夜伽用の木を3～4個程置いて、トタンを被せ、煙突も外して空気が循環しないように熾火と夜伽の木のみで一晩過ごす。2日目は、早朝よりトタンの被せを外し、煙突をつけてひたすら薪をくべ窯の温度を上げる作業。その結果、2時頃には、とば口をレンガ一個分に仮閉め。4時には完全に閉めて今回の炭焼きが完了し散会しました。

次回の炭焼の時、窯出しをするまで、今回の炭焼きの良否結果はわかりません。毎回希望をもって窯開けしますが、自分達が納得のできる炭が焼きあがると喜びは得がたいものがあります。



炭小屋内での火入れ

里山植物リサーチ事業

ガイド活動再開（令和3年度ガイド活動の実施報告）  
平塚 芳雄

去る令和3年11月13日（土）、ガイド活動「新しく指定された市民の木を訪ねてみよう」を定例の牛久市との協働事業として実施しました。コロナ禍により、当プロジェクトのガイド活動、研修見学会活動は令和元年度のガイド活動「奥原町の巨樹と外来植物を訪ねてみよう」を最後に実施できないで来ましたが、やっと今回再開することができました。今回も都市計画課と役割分担して牛久市のバスを利用して実施しました。このテーマでのガイド活動は令和2年度（令和2年12月5日）に計画し、参加者も募集、確定していましたが、コロナ禍の状況が悪化したためやむを得ず中止とした経緯があります。又、令和3年度にも9月の実施を計画していましたがコロナ禍の為、果たせず、今回延期して実施の形になりました。そのような事情で、市広報を使用しての参加者募集は時間がないこともあり行わず、過去のガイド活動に応募した方の中からこちらからの電話で参加の意思を確認し参加者を確定しました。コロナ禍でのバス利用ということで参加人員は19名（内当日2名欠席）に絞りましたが、都市計画課の計らいでバス2台を利用できることになり、一般市民参加者乗車のバス他、当プロジェクトメンバー乗車（プロジェクトメンバー11名、都市計画課2名）のバスも用意され、当日の参加者は総勢30名となりました。

当日は風もなく秋日和、ほぼ予定していた内容、時間で無事に実施することができました。「市民の木」は「牛久市みどりと自然のまちづくり条例」により平成3年10月に、当初41本が指定されましたが、その後の自然災害、生育地の環境変化、所有者の都合等により指定解除されたものもある（10本）一方、新たに指定されたものもあり、現在、13種、37本が指定されています。主として巨木が選定されています。指定された樹木は長い年月をかけて生長し、私たちの生活の一部として、その地の歴史や文化を象徴している貴重な存在となっています。今回指定（令和2年4月）された市民の木は東端町八幡神社近くの個人宅の「ニッケイ」、桂町金剛院の「モミ」ですが、今回のガイドにおいても単に今回指定された「ニッケイ」、「モミ」を案内、解説するだけでなく、歴史的な面も含めてその生育環境、近辺の樹木の状況、里山景観等を含めて直接、自分の眼で見て体で感じて欲しいと願い企画、実施したものです。身近な緑の大切さを知る機会となればと願っています。



羽賀さんによる市民の木「ケヤキ」の解説



プロジェクトメンバーによる地域の歴史の説明

牛久自然観察の森指定管理者

冬の昆虫教室実施報告

木谷 昌史

12月18日（土）、1月15日（土）、13組37名の親子を対象に冬の昆虫の生態を紹介する「冬の昆虫教室」を開催しました。

気温が低くなり姿を見せなくなった昆虫たちですが、寒い冬の間はいったいどのように過ごしているのか？テレビや図鑑では見たことのある冬越しの様子ですが、身近な場所で探してみてもなかなか見つかりません。昆虫好きの子供たちやそのご家族には特に関心が高いようで「冬の昆虫」をテーマにした観察会の企画には、定員を上回る申込みがあり、開催数を1回から3回に増やすことになりました。（2月28日（日）にも開催予定です。）

紹介した昆虫の種類は8種類。池の中でヤゴの姿で冬を越すクロスジギンヤンマ、エノキの落ち葉の下にひっそりと身を潜めるゴマダラチョウの幼虫、セイタカアワダチソウの茂みに擬態するオオカマキリの卵などなどいずれも隠れ上手です。特に圧巻だったのは枯れ枝に変装したホソミオツネトンボ。成虫で冬を越す不思議な生態に驚くとともに、目の前にいてもなかなか気がつかないほどの身の隠し方。姿を認識できた時は大人の方からも感嘆の声が上がりました。参加者のご家族は、それぞれの昆虫たちが工夫をこらしながら厳しい寒さの中で過ごす様子を垣間見れたことや発見できた喜びで満足げな表情でした。再び暖かい春が訪れ元気に活動する昆虫たちの再会を楽しみに皆さん雑木林・野原を後にされました。

多種多様な環境のもと生き物達が暮らしやすいよう、市民の方が出会いやすいよう引き続き管理していきたいと思えます。



セイタカアワダチソウの群落でオオカマキリの卵を探す様子